



たなか

編集・発行 荻田町青少年育成町民会議 ☎093・434・9838



▲ 森の学校作業風景

スタンプラリーで 木工工作キットを配布

11月14日（日）、役場前駐車場スタート・

ゴールで、荻田町子ども会育成連合会主催のスタンプラリーが行われ、町民会議が参加者に参加賞として「木工工作キット」を配付しました。

例年は子どもフェスティバルの一環として、木工教室を開いてきましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年に続き、屋内のフェスティバル自体が中止となり、スタンプラリーを開催することになりました。

スタンプラリーは荻田町商店街などを中心に回り、荻田山笠の格納庫も見学できるコースです。子ども会の田口会長は「各ポイントでは温かいおもてなしをいただき、商店街に子どもたちの姿が多く見られていいね、などと声をかけていただきました」と話していました。

町民会議が配付した工作キットは、障がいを持った方が自立をめざす施設であるNPO法人・森の学校（豊前市）の皆さんが制作してくれたものです。クリスマスツリーや羽子板、来年の干支である虎など八種類の作品から好きなものを選んでもらいました。

ご挨拶



荻田町青少年育成町民会議

会長 三角 主計

令和三年も前年に引き続き、新型コロナウイルスに翻弄される一年でした。恒例行事の親子ふれあい広場、オアシス運動人形劇公演、子どもフェスティバル・木工教室、声掛け運動などが中止となりました。

また、今年は、福岡県青少年育成県民会議主催の少年の主張福岡県大会を荻田町で開催する予定でした。九月五日の開催に向け、アトラクションとして荻田中学プラスバンドや南原神楽の皆様に出演をお願いし、県民会議と会議を重ねてきました。しかし、七月になってデルタ株が猛威を振るい、緊急事態宣言も発出されたため、残念ながら荻田町開催を断念し、ビデオ審査に切り替えました。準備に当たってご尽力いただいた会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

新たにオミクロン株が蔓延する兆しもあり、コロナ禍はまだまだ続きそうです。しかし、ピンチをチャンスに変えなければなりません。町民会議でも、ウィズコロナを見据えながら、SDGsの学習会を開くなど、新しい活動の在り方を模索しているところです。

今後とも、町民会議の活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

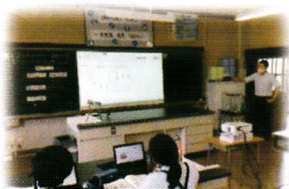
一人一人が主役で 一人一人が輝く 片島小学校

片島小学校(小規模特認校)
入学(転学)児童を募集しています!!



㊦可能性を伸ばし ㊦互いの良さを認め合い

㊦少人数だからこそできる ㊦学びがいっぱいの学校



ICT 機器を活用した指導



浄土院川の生き物調査



神楽の学習



校内で収穫した
梅ジュース作り

小規模特認校制度とは、荻田町教育委員会の指定を受け、町内全域どこからでも片島小学校に通うことができる制度です。片島小学校の特色ある教育活動に魅力を感じ、ここで学んでみたいという方を何年生からでも受け入れています。入学・転学手続きは、まずは荻田町役場 教育総務課または片島小学校へ電話でお問い合わせください。

荻田町役場 教育総務課 Tel093-434-1998

荻田町立 片島小学校

Tel0930-22-2495

特別寄稿

何を得て、何を失うのか、考える時間を作る

エンジェルズアイズ 代表 遠藤美季



遠藤美季プロフィール

エンジェルズアイズ主宰。情報教育アドバイザー・ネット依存アドバイザー。著書に『脱ネット・スマホ中毒』（誠文堂新光社）、『子どものネット依存—小学生からの予防と対策』（かもがわ出版）など多数。

今、環境問題と人類の存続に注目が集まっています。私たちが暮らす快適な社会を築くために、人間は地球の環境に取り返しのつかない深い傷を与えてきました。そのことに気づき警鐘を鳴らす人がいてもほとんどの方は長年気にすることはなかったのです。

人は何かを失いつつあっても、目先のことに夢中であればあるほど気づかないものです。また気づいても自分にとつての損得を計算し、時に気づかないふりをしがちです。数十年後に起きるだろう負の影響を予測して行動をするのはとても難しいことなのです。

私たちができることとは？
コロナ禍の影響で昨年は一部の講演が中止、もしくはリモートでの実施になりました。学ぶ機会がゼロになるよりはリモートでも実施するほうが良いと思うのですが、ただ当然のことながら対面と非対面では集中力や印象など、全く違います。互いに画面をみても実際目が合っているのではありません。場の空気を感じたり共有することもできません。講演終了後、退室ボタンと共に真つ暗な画面に切り替わった瞬間違和感を感じることもあります。移動時間も有意義だった私にとつては非対面の講演は残念でもあり、しかし老いていく身にとつては移動の疲れがないのは楽でもあり、一長一短と感じています。

子どもたちの生活は変わりました。GIGAスクールが前倒しになり、小中学生はタブレットを使い学習を始めています。リモート学活、リモートワーク、リモート飲み会とスマホ一つあれば、家にいながらも他人とのコミュニケーションはいつでも可能だと実感した人は多いでしょう。しかし効率的なこのスタイルに馴染む前に私たちは改めていろいろなことを考えなければならぬと思うのです。この生活で私たちは何を失う、何を失う可能性があるのか。

近年、同じ家にながらも家族がそれぞれ自分の趣味や娯楽をスマホやタブレットで楽しむ世帯内個人志向が強まっています。いわゆる『背中合わせの家族』は居間においても違うコミュニケーションに属している何をしているのか互いに関心がないといえます。

この状況では誰といっても、どこにいても、常にスマホを見ることが習慣化してもおかしくはないでしょう。その習慣はすき間時間も埋めていきます。すき間時間にぼんやりすること

(DMN) が無くなり、本来その間活発になっていた脳の重要な活動が妨げられてしまうという人間にとつての危機的状況も起きています。

通知に抗えない人間の性もありますが、それほどの犠牲を強いても絶え間なく仕入れる情報は自分にとつて必要なのでしょうか。『知るべき真実』にはアクセスせず、『自分が知りたい情報』に囲まれて日々過ごしているという人が増加するの心配です。

人によつてスマホを使う目的は違うと思います。私も以前は多くのコンテンツを利用していましたが、俯瞰で自分のスマホ利用をチェックし、現在の仕事と生活管理に使うスタイルに定着しました。自分が必要に応じて使っているのか、ボーダーラインを意識しつつ関わって欲しいと思います。『後の祭り』にしてはいけないのです。

※遠藤美季さんには、令和二年三月に講演会をお願いしておりましたが、新型コロナウイルス感染対策のため延期しました。現在も、オミクロン株の発生等、大規模な講演会を行える環境にありませんので、今回、特別寄稿をお願いしたところです。

オアシス

オアシス運動作品ポスターの部で 井中さん、石川さん、古川さんが

優秀賞受賞



馬場小6年 古川未憂奈 さん



白川小2年 井中ももか さん



馬場小4年 石川知冴 さん

福岡県青少年育成県民会議が募集した令和3年度「家庭の日」「オアシス運動」作品の入賞者が11月15日に発表され、苅田町から次の方々が入賞しました。(敬称略)

ポスターの部

優秀賞 井中ももか(白川小2年)、石川知冴(馬場小4年)、古川未憂奈(馬場小6年)
奨励賞 近藤匠悟(馬場小3年)、工藤梨花(馬場小5年)

作文の部

奨励賞 箕田海斗(新津中1年)、市原由莉(新津中1年)、森下志織(新津中1年)、井内忠利(苅田中3年)

※優秀作品は、令和4年1月24日から1月30日まで、アクロス福岡2階・メッセージホワイエ(福岡市中央区天神1-1-1)で展示されます。(午前10時〜午後6時まで 最終日は午後4時まで)

少年の主張苅田町開催 コロナのため中止に

ビデオ審査で井上さんが奨励賞

昨年、厳しい入場制限の中、第42回大会がサザンクス筑後で開かれましたが、最後に次年度開催地の苅田町代表が挨拶したとき、多くの人は思ったはずです。——来年はきっと、観客を入れた大会が開かれるだろう、と。

しかし、新型コロナウイルスの猛威は想像を超えていました…。

第43回大会は、9月5日に苅田町中央公民館で行われることになり、県民会議と苅田町民会議は有観客開催を疑うことなく準備を進めていきました。アトラクションも苅田中学のブラスバンド演奏や、地元の南原神楽表演に決まりました。

コロナ禍にも関わらず、53校、208人から作文の応募があり、

審査の結果、18人の県大会選出者が決まりました。ところが、収まるかに見えた新型コロナウイルスが7月になって猛威を振るうようになり、福岡県の感染者数が500人を超えるまでになりました。

このため、8月3日、苅田町での大会中止が決定され、ビデオ審査に切り替えました。大会参加予定だった中学生は各学校で動画を収録し、集まった動画を審査員が一堂に会して審査することになりました。

しかし、感染者数が千人を超え、8月20日に緊急事態宣言が発出されると、それも困難になり、審査員が各自宅で審査するという異例の事態となってしまいました。

本来だったら苅田中央公民館大ホールの舞台に立ち、大勢の聴衆に訴えるはずだった中学生たちは、ビデオカメラを見ながらの表演となってしまったのです。

審査の結果、福岡県知事賞には田主丸中学校(久留米市)の山岡由愛さんが選ばれ、苅田町からは新津中学校の井上心汰さんが優秀賞に選ばれました。

少年の主張

少年の主張福岡県大会奨励賞受賞

「いじめ」から助けられないか

新津中学3年 井上 心 汰



あなたには、誰か一人でも自分を支えてくれる友達と呼べる人がいますか。また、その人は自分の困っている事や不安に気づいて、助けてくれますか。

ニユースや新聞を見ていると「いじめによって学生が自殺した」という話をたびたび耳にします。いじめによって亡くなってしまうのは、なぜなのでしょう。また、いじめられている人達をなぜ助けられないのでしょうか。

また、最近ではSNSなどを使ったインターネット上でのいじめについての話をよく聞きます。僕は、先生や家族の目の届かないインターネット上では、現実のいじめ以上に悪質なのではないかと思っています。顔が見えない分、強気になって、ひどいことを書き込む人が多いのではないのでしょうか。

僕は、小学生の頃によくいじめられていました。小さい頃から気が弱かったのも、その人達にとってはいじめやすかったのだと思います。いじめはひどい場合は暴力をふるわれることもあるようですが、僕はそこまではありませんでした。しかし、言葉で責められて「やめて。」と言っても余計にふざけられて、自分一人の力ではどうにもならず苦しかったです。しかも、担任の先生に言って対処してもらっても逆効果で、次の日にまた

たいじめられました。また、母が先生に相談してくれたこともありましたが、そもそも先生にきちんと対応してもらえなかったり、対応してもらってもそこまで厳しくその子を叱ってくれなかったりで、そのうち、先生に言っても意味がない、逆効果だと思うようになりしました。いじめはその後も続き、誰にも相談できずに学校に行きたくないと、だんだん思うようになっていきました。ですが、そんな時に友達が声をかけてくれました。僕がいじめられていたのを知ってか知らずかは分かりませんが、いじめには触れずに普通に接してくれました。友達が元気づけてくれたから、その後は学校へ楽しく行けるようになりました。

だから僕は、いじめられている人を見つけたら、誰でもいいので声をかけてほしいと思います。いじめられている人は、誰も味方になってくれず一人なのが苦しいと思います。

だから誰か一人でも声をかけてくれると気持ちが悪くなるはずで、自分は関わりたくないという気持ちはあると思いますが、知らないふりをせずに声をかけてあげて下さい。それだけでもきつと、その人の助けになれるはずです。

※「令和3年度少年の主張福岡県大会発表文集」より転載

SDGs

2030年、あなたは何歳ですか？

町民会議副会長 門 富 巖

世界の人口は78億人で、日本人は1億2千万人、そのうち荻田町には3万7千人いますが、実は「世界レベルの社会契約」に皆さん一人ひとりも関わっているのをご存じですか？

世界の国の数は96か国、国際連合の加盟国数は日本を含め193

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



か国ですが、全ての国連加盟国が約束した取り組みが現在行われているので、簡単に紹介したいと思っています。

SDGsです。日本語では持続可能な開発目標と訳されています。

地球に住む誰もが幸せを感じられるような豊かな世界にしていけることが、SDGsの最大の目的で、先進国から途上国まで、経済・環境・社会の諸課題を包括的に扱い、2030年までにあらゆる形態の貧困に終止符を打つという非常に壮大な国際目標で、17のゴールと169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓っています。もちろん、あなたも。

「2030年までに達成すべき17の目標」は、具体的には「貧困をなくす」「飢餓をゼロに」「全ての人に健康と福祉を」といった社会全体の内容もありますが、「つくる責任、つかう責任」「海の豊かさを守ろう」といった、日頃か

ら皆さんが自然に取り組んでいる内容もあります。では、どんなことでしょうか？

節水に気を配ったり、雨水を使って畑に散水したり、お風呂の水を洗濯に利用していますよね。

公園にきれいな花壇を整備して、住みよい町づくりを心がけている取り組みもありますね。

多くの皆さんにご協力いただいた「手作りマスク」も、リサイクルや資源の再利用も全て当てはまります。

SDGsの実践に唯一の「正解」はありません。考える人の数が多いほど「答え」が生まれてきます。

決して難しいことを新しく始めることではなく、老若男女問わず、ひとりひとりが「意識」することが第一歩なのです。

2030年、あなたは何歳ですか？今から一緒に、それぞれが出来ることから、あるいは日頃からやっていることを続けながら、17のゴールに向かって知恵を絞り、アイデアを出して、実践していきませんか？

あなたもメンバーの一人です。

町民会議もSDGsへ積極的に取り組んでまいりたいと思います。

役員がSDGsの学習会

10月24日、中央公民館で、役員15名により、SDGsの学習会を開きました。町民会議もコロナ禍で活動の中止・縮小が相次ぎましたが、今後もウイズコロナの観点から、今までは違った活動が求められています。来年度以降、新たな活動計画を立てるにあたり、SDGsの考えを取り入れる必要があり、学習会を実施しました。



クイズ コロナ

ソーシャルディスタンスは

思いやりの距離

荻田小学校校長 宮 城 強

コロナ禍のなか、二回目の冬を迎えました。新型コロナウイルスを撲滅することは現段階では難しいことと考えます。ならば、私たちはこれから先もコロナウイルスと一緒に生きていかなければなりません。そのためには今までと違う生活様式をしていくことが必要となります。

一年以上、学校では毎日のように「ソーシャルディスタンスを守るために、離れよう！」と声かけを行なってきました。「人と離れる」ことは、相手の人を嫌いなと



きや怖いとき、近寄りたくないときなどが多いのではないのでしょうか。離れられた人も「あつ、私のことを避けた、よく思われていないな」などと心配になったりしますよね。

しかし、よく考えてみると、ソーシャルディスタンスの離れ方は違います。

ソーシャルディスタンスは日本語で「社会的距離」といいます。「社会的」というのは、社会の多くの人たちと気持ちよく生きていくということです。そのように考えると社会的距離というのは、社会のみんなが安心して生きていくために保つ距離ということになります。

ソーシャルディスタンスは相手に対する思いやりと一緒に使う言葉でなければなりません。この言葉には「あなたのことが大事だから離れています」という、やさし

い気持ちが含まれていると私は考えています。あなたが、周りの人みんなが好きで大切だから離れるのです。互いに大事に思い合い、目に見えないコロナウイルスを広げないよう、安全に暮らせるよう、ソーシャルディスタンスをとるのです。「間隔をとって互いの距離を意識しよう」と相手が離れたら、「ありがとう」と応える気持ちが大事だと思います。自分のことだけでなく、相手のことを思いやる、そんな人々があふれている世の中にしていきたいですね。

「近づくな、離れろ」相手の考えや都合を考えずに追い払う行為はソーシャルディスタンスではありません。同じ言葉でも、気持ちの込め方や伝え方でやさしい行動となり、よりよい社会になると私は信じます。よい社会をつくるのも、ひどい社会をつくるのも私たち自身です。

学校は、子どもたちにそれを考えさせ、練習させる場所です。友だちや先生たちと安全に過ごし、気持ちのよい言葉を使いながら、すてきな学校をつくっていくのは、教職員を含めた子どもたち自身だからです。

それが、誰もが安心できる社会をつくる第一歩です。

編集後記

入院すかとも家族が遠かりき友に会うそんなことにも感動しワイドショー コロナ博士がやたら増え

右は、神田町の松本恵美子さんがお寄せくださった川柳です。全く同感ですね。

今年は八月、九月でデルタ株が感染爆発し、少年の主張福岡県大会の荻田町開催を吹き飛ばしました。十月以降は感染者数も激減し、収束に向かうのではという期待もありましたが、今度はおミクロン株の出現です。

しかし、ピンチは新たなチャンスを生み出すと信じています。町民会議でも、活動の在り方を根本的に精査する機会と捉え、これからの活動に活かすためにSDGsの学習会を始めたところです。

最後に、松本さんの川柳をも一つ。

コロナ禍を昔話にしたいよね

学校紹介

新津中学校

確かな学力・豊かな人間性の育成

『一人一人の学びを大切にする学校、
「行きたい、行かせたい」と言われる学校』

| | |
|-----|-----------------|
| 学級数 | 15学級(特別支援学級3学級) |
| 生徒数 | 1年 132名 4学級 |
| | 2年 143名 4学級 |
| | 3年 139名 4学級 |
| | 全校 414名 |
| 校訓 | 自律・礼儀・健康 |

あ いさつが響き合う

ら すとまで目標に向かって伸び合う

つ たえる気持ちを認め合い支え合う



【学校教育目標】

「将来を生き抜く力」を培い、よりよい社会の実現に参画できる生徒の育成

【育成をめざす資質・能力】 言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力、自己理解・自己管理能力、多様な他者と協働する力

【重点目標】 自ら考え、行動し、自他のよさや違いを認め、仲間と協働する生徒の育成

【めざす生徒の姿】

- 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え表現し、適切に判断して行動する生徒
- Chromebook等ICTを活用した学習に意欲的に取り組もうとする生徒
- 夢や目標を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己実現を図ろうとする生徒
- 自らの命を守り、多様性を理解し他者への思いやりをもつことができる生徒
- よりよい人間関係を築き、地域や社会のために尽くそうとする生徒
- 心身ともに健康でたくましく、自己をコントロールしながら、社会の変化にしなやかに対応できる生徒



【めざす学校の姿】

- 挨拶が響き合い、落ち着いた学習環境の中で、生徒が安心して学べる学校
- 自他の命を尊重し、互いのよさや違いを認め合う心を育む学校
- 組織的・協働的に教育課題の解決に取り組む学校
- 社会の変動や要請に対応し、未来志向で変革をめざす学校
- 保護者や地域と連携し、協働する学校



【めざす教師の姿】

- 礼節をわきまえ、心身ともに健康な教師
- 職能成長の意欲をもち、情熱や使命感にあふれ、協調性のある教師
- 深い生徒理解に基づいて、生徒一人一人のよさを引き出し、可能性を伸ばす教師
- 主体的に研修に励み、実践的指導力の向上をめざし、ICTを活用した授業力が身についた教師
- 教育公務員としての職責を自覚し、生徒や保護者、地域から信頼される教師



本年度の重点

- ◆自分の考えを理由や根拠をもとに筋道を立てて説明できる生徒の育成 【言語能力、情報活用能力】
《思考力・判断力・表現力を育成する授業ができている教員・生徒 70%以上》
- ◆命を大切に、自分も人も大切にすることを大切にする生徒の育成 【人間関係形成能力】
《いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思える生徒 100%》
《わが子は、学校生活でやさしさや思いやりの心を育てている保護者 70%以上》
《生徒には自分や仲間を大切にできる豊かな心が育っている教員 70%以上》
- ◆メディアセルフコントロール力を身につけ、自主学習(予習・復習)に取り組む生徒の育成 【自己管理能力】
《毎日、自主学習(予習・復習)をしている生徒・保護者・教員 70%以上》
《毎日、決まった時刻に寝ることができている生徒・保護者 70%以上》
《けじめのある生活(テレビ・ゲームの時間を守る)をしている保護者 70%以上》
- ◆読書活動で、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにする生徒の育成 【言語能力、問題発見・解決能力、自己理解力】
《生徒は積極的に読書活動に取り組んでいると思う教員 70%以上》
《読書は好きと回答する生徒 70%以上》《1日30分以上読書をする生徒 50%》



具体的方策

- 筋道を立てて考えたことや判断の根拠を過不足なく示して説明する場面のある授業。
- ChromeBook等ICTを活用した授業の実践。UDの視点を取り入れた授業継続。
- 自他の気持ちを伝え受け止め、よりよい人間関係づくりの力を育む。「月一作文」と「1分間スピーチ」の取組を全校で実践。
- 「生命の尊さ」「温かい心、思いやり、親切」「相互理解、寛容」を重点内容とした道徳科の授業の充実。
- 「かんだっ子学習リーフレット」を活用。家庭学習(宿題・自主学習)の質・量を充実。
- 定期考査前に「メディアコントロール週間」を設定し、ゲーム・スマホ・YouTube等の利用時間を守る取組の推進。
- 子ども読書の日の読み聞かせ・図書館まわりの取組や朝読書の時間等の充実。